

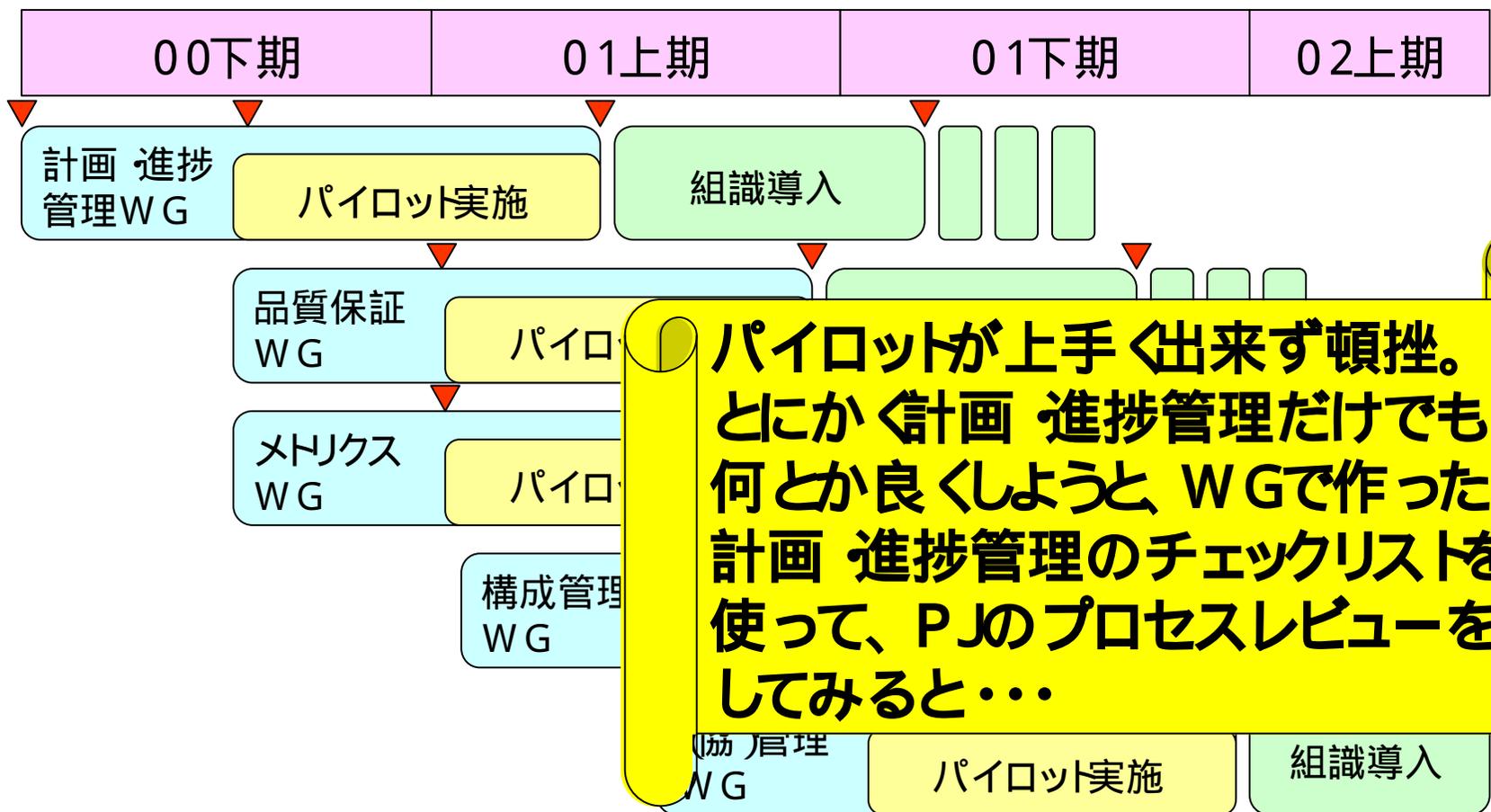
# QCサークル型活動スタイルによるSP推進

---

オムロン株式会社  
(AMB)開発センタ  
濱崎 治

osamu\_hamasaki@omron.co.jp

# 初期の改善活動計画



# PJ毎に困っていることが違う!

Bチームの作業が遅  
れてるのか。他のチー  
ムと調整しないと...



Bigger- PJ

そんなリスクもある  
のか。どうしようか...

この作業があるの忘  
れてたな。スケジュー  
ルを直さないと...

クレーム発生!  
この大事な時に。

Aさんは何時になったら  
あのPJから抜けられる  
の? 品質が安定しない  
らしいが...

またスケジュールが  
破綻! もう線表は書  
きたくない。。

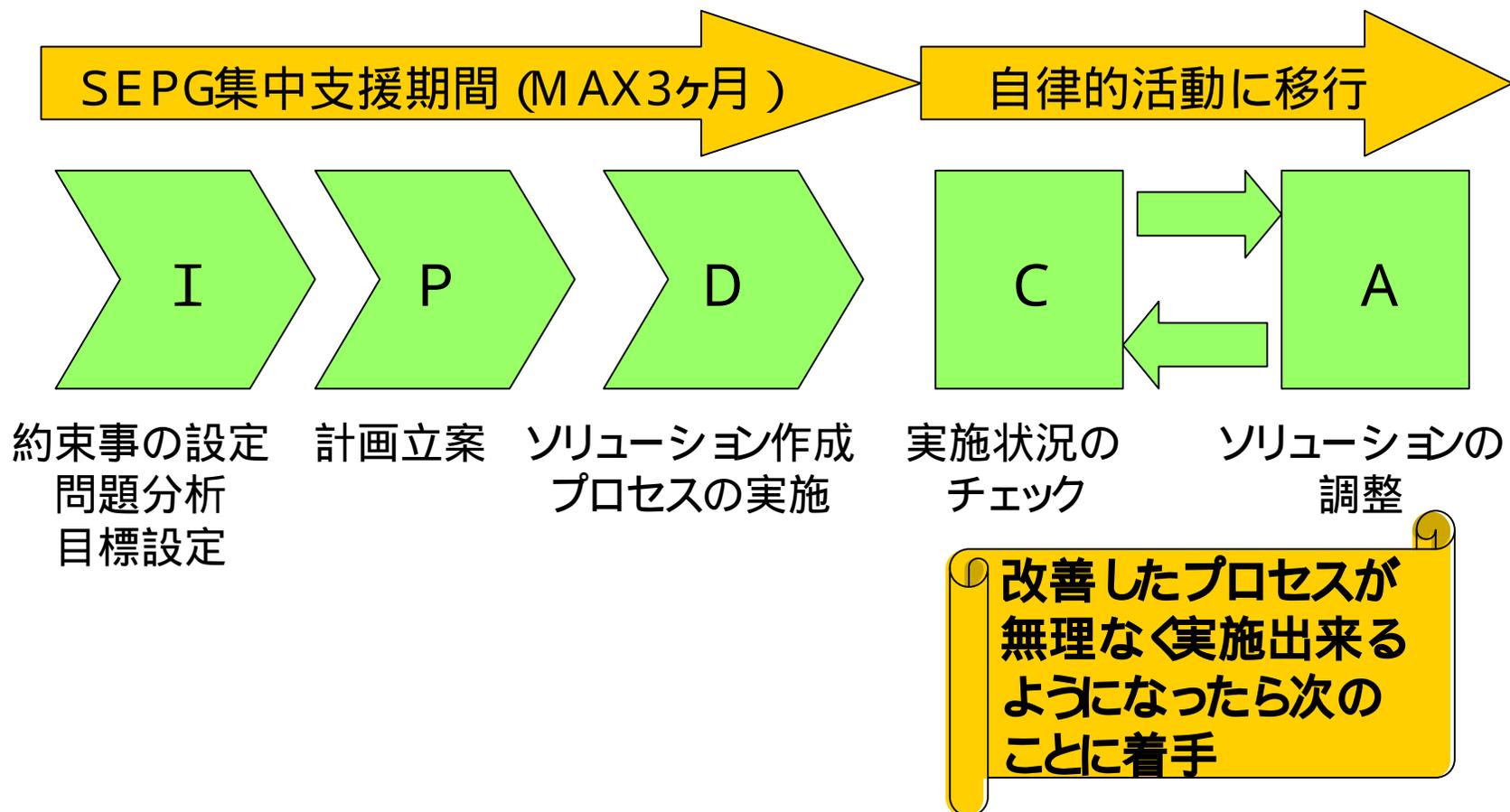


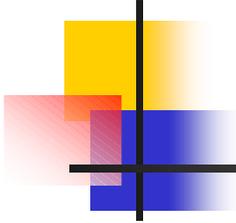
Smaller- PJ

# 現在の改善活動計画



# グループ活動のライフサイクル





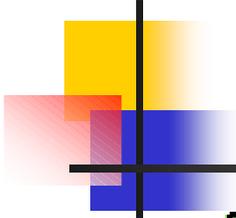
# グループに対するSEPGの役割

- ✎ 自律的な活動の支援を重視
  - ✎ 活動初期はミーティングのコーディネートと進捗管理
  - ✎ 自律した活動が出来るようになったら改善ミーティングや勉強会が継続するよう リーダーを後押し
  - ✎ 帳票やプロセス文書を作成し、プロセス資産ライブラリへ登録
  - ✎ 改善項目の優先順位付けに対する提言
  - ✎ 改善アイデアの提供
- ✎ プラクティスのグループ間での移転の役割も

# グループ活動の事例 1

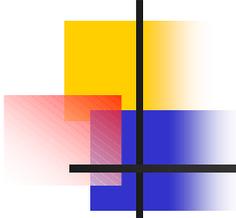
置かれていた状況	少人数 (1~ 5人程度) のPJ、外注比率低く、プロパーのメンバーは管理から設計・実装作業までを実施
改善の動機	フィールドクレームの対応に追われて、開発PJに対する影響が大きく困っていた
改善対象プロセス	ピアレビュー (レビューチェックリストの作成 / 活用、再レビューの徹底、管理職による実施チェック)
上手くいったこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・クレーム対応が減り、開発作業により多くの工数を投入できるようになった</li><li>・改善ミーティングが自律的に運営されるようになった</li><li>・設計スキル向上のための勉強会も自主運営されるようになった</li></ul>
上手くいかなかったこと	計画したことの一部がSEPG集中支援期間内に終了できなかった (計画時に欲張りすぎ)

\* このグループの問題分析、活動計画を参考資料として添付  
SEPG-J 2003 オムロン (株) 濱崎治



## グループ活動の事例 2

置かれていた状況	多人数 (10人 ~ ) のPJ、外注比率高く、プロパーのメンバーは管理を主に実施
改善の動機	PJ 実行中に想定外の作業が発生し、それに追われて、レビューや管理が手薄になる
改善対象プロセス	<ul style="list-style-type: none"><li>・ピアレビュー (事例 1 のグループが適用しているプロセスをこのグループにも適用拡大)</li><li>・リスク管理 (レクチャー、演習、実施と障壁の解消)</li></ul>
上手くいったこと	・別グループ実施済みのプロセスの横展開が出来た
上手くいかなかったこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・自律的活動に移行しようとした矢先、リーダー格の人を含め半数ぐらい異動。グループを再編成し、活動の建て直しを余儀なくされた</li><li>・ビジネスゴール的に困っている度合いが低く、事例 1 ほど盛り上がっていない</li></ul>

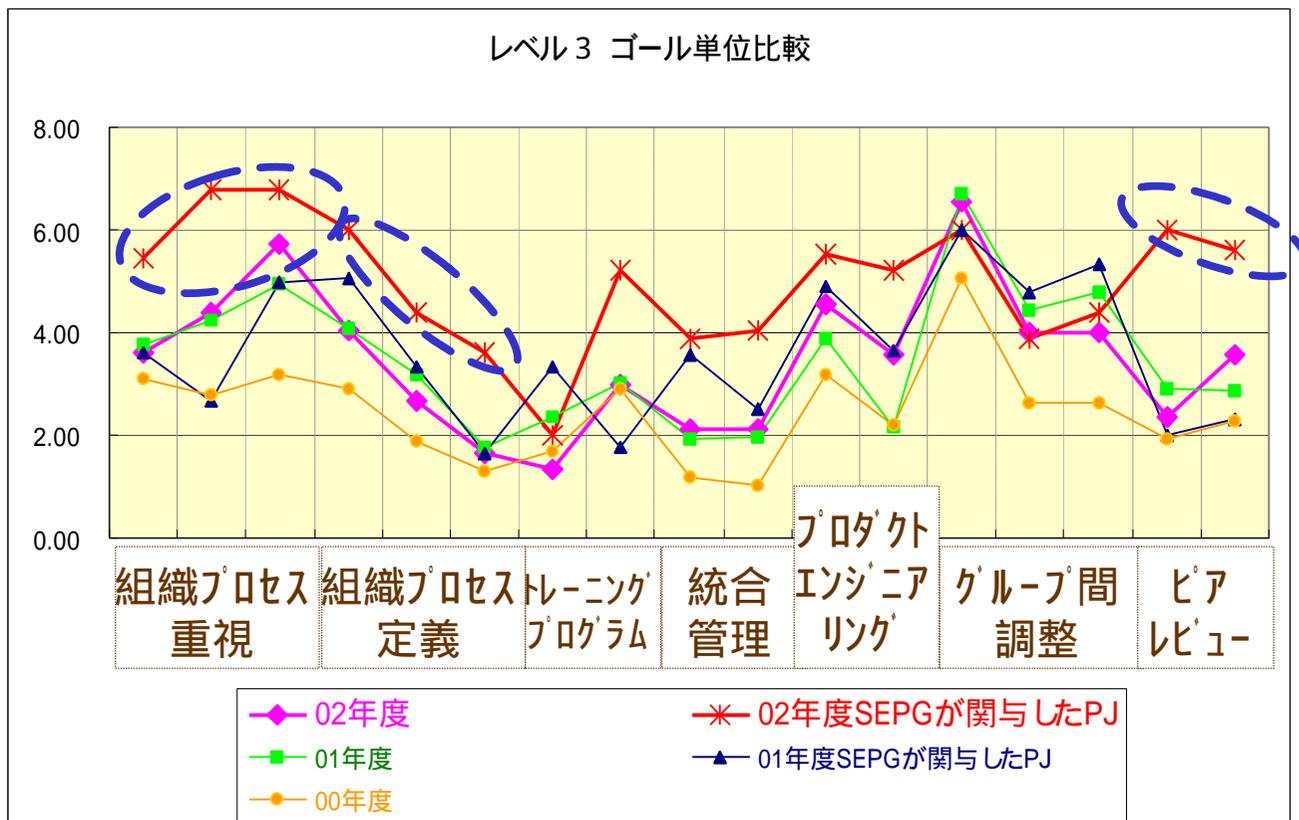


# ソリューションはどこから来るか

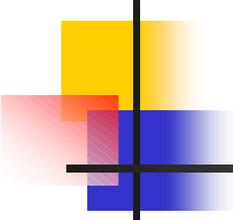
- ✍ 誰かが既に実行していることを皆でやる
  - ✍ 困っているPJで試しておいて、ネタを仕込んでおくのも一つの手
- ✍ 既に標準があるものを、さらに使い易く
  - ✍ 特に帳票類
- ✍ 使い易くする為に環境の工夫が必要なこともある
  - ✍ 例:よく使う帳票はいちいちプリントせず、水道方式に
  - ✍ 例:ポケットに携帯できるように、A6に印刷
- ✍ 誰もやっていないこともある
  - ✍ 定着するまで根気よく実施するしかない

# 現場の反応

## 2002年度末の自己診断結果より抜粋

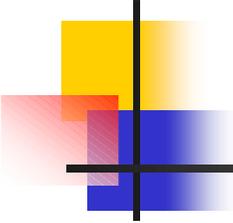


重点的に支援したグループでOPF, OPD, PRの評価が高くなっている



# 教訓

- ✍️ 少しずつ、確実に仕事の仕方を変えよう
  - ✍️ 現場が何に困っているか理解し、確かに役に立つことを実行すること
- ✍️ 答えは組織の中から探そう
  - ✍️ 標準 / 規約はプラクティスを共有化するために作り、プラクティスを忘れずに実践するために使うもの。どこかからの借り物ではダメ
- ✍️ 改善は面白い」と思える活動をしよう
  - ✍️ グループの活動が自律的になれば、SEPGIはちょっと後押しをしてあげればよくなる



# 参考資料

---

## あるグループの活動事例

### グループの約束事

### 問題分析の例

G.M.ワインバーグ著：

「ワインバーグのシステム思考法

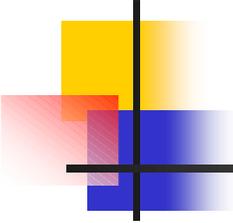
ソフトウェア文化を創る(1)」(共立出版)

で、「効果図式」として紹介されている手法を用いている

### グループの活動計画からの抜粋

- 打ち手の優先順位

- WBS

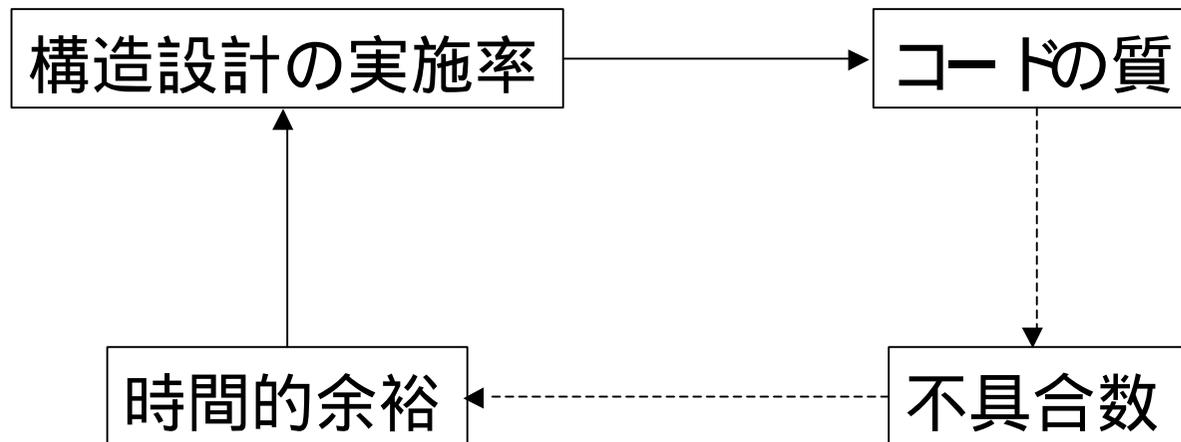


# グループの約束事

- ✎ 週 2時間 ~ 3時間、改善活動に関する時間を皆がとる。(主に問題分析、打ち手の検討、状況の確認のためのミーティングに使う)
- ✎ ミーティングは金曜 10:00~ をデフォルトとし、状況により木曜、金曜のいずれかに設定する
- ✎ M TGの案内は SEPGから出す
- ✎ 改善目標の設定は、以下のメンバーで行う
  - ✎ Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさん
- ✎ 第1回のM TGは9月13日(金)(仮置き)

# 問題分析結果の表記ルール

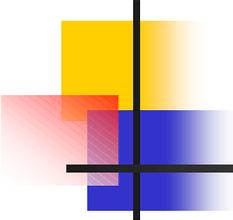
サンプル： 正の相関があると考える  
項目間は、実線で繋ぐ



(手段さえ確立できれば)  
定量的に計測可能と  
思える表現で、項目を記述

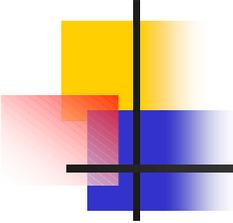
相乗効果があるものは  
両向きの矢印で示す





# 打ち手の優先順位

- ✎ 以下の順の優先順位とする
  1. 以下の2つを並行して実施
    - ✎ レビュー効率向上 (改善指標 :工数あたりのレビュー対象の量)
    - ✎ 成果物 / 作業の質の測定 (改善指標 :全レビュー欠陥検出率、総欠陥数)
  2. レビュー実施率 / 再レビュー実施率向上
  3. 計画レビュー / 進捗管理状況レビュー実施

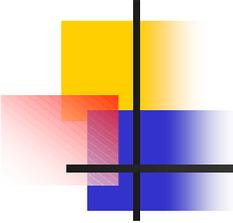


# WBS (1)

---

## レビュー効率向上

- ✖ チェックリスト改善 (グループ全体のMTGで作る、10/14の週に実施)
  - ✖ レビュー実施前の事前自己チェック欄の追加
  - ✖ レビューの準備物のチェック追加
  - ✖ レビューアー選定基準のチェック (第3者が含まれているか?)
  - ✖ レビューの視点のリストの改善
- ✖ チェックリスト改善プロセスの定義 (SEPG、10/21まで)
- ✖ レビュー効率計測方法の定義 (SEPG、10/21まで)
- ✖ ファームG全体での実施 (10/21開始)

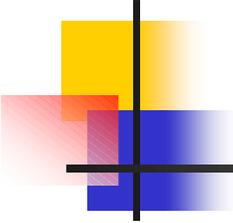


## WBS (2)

---

### 作業成果物の質の測定

-  欠陥検出率測定プロセスの定義 (SEPG、10月中)
-  データ収集方法の定義 (SEPG、10月中)
-  パイロット実施 (テーマ :UN-P/J,11 / F開始)
-  ファームG全体での実施 (12月以降)



## WBS (3)

---

- ④ レビュー実施率 / 再レビュー実施率向上
  - ④ レビュー完了報告フォームの定義(グループ全体MTGで作成、10/14の週に実施)
  - ④ 進捗管理QA方法の定義 (SEPG,10/Mまで)
  - ④ 実施率の計測方法の定義 (SEPG,10/Mまで)
  - ④ ファームG全体での実施 (10/21開始)
  - ④ 実施率の評価 (11/E)